

年末・年始に子どもたちに伝えたこと（校長講話より）

《12月 朝会「校長講話（要約・抜粋）」》 平成30年12月21日（金）

「一年の計は、元旦にあり」こんな言葉を聞いたことあるでしょうか？「計」とは計画のこと、「元旦」というのは、「1月1日の朝」のことです。つまり、「その年にすべきこと、または、達成させたい目標は、元旦に計画をたてたほうがよい」という意味です。新しい年になったら、3月に6年生はこの相和小学校を卒業して4月に中学生になります。5年生は最上級生の6年生に、4年生は5年生にと、みんな一つずつ学年があがります。そうしたことも考えに入れて、「2019年はこんな年にしたい」「これを目標にしたい」というのをもち、その計画を立ててほしいと思います。

しかし、ただ何もしないで新年をおかえても目標を持つという気分にはなかなかないものです。大事なことは、新年をおかえる準備をしっかりすることが、大切なことです。みなさんのうちでも、「大掃除」をすることでしょう。普段の掃除ではなかなかきれいなところまでも、きれいにしたいと思います。こういう仕事・作業をすることで、新しい年をすがすがしく迎えることができるのです。ですから、「一年の計は元旦にあり」といっても、その前の「年末」の過ごし方が大切だと私は思うのです。

みなさんがいつも使っている部屋、机など、一年間のほこりははらうつもりできれいにしてください。そして、おうちの人が大掃除をしているときには、いっしょになってやってください。そうすることで、新しい年を迎える心の構えができます。このあと、各教室で「冬休みの過ごし方」について、担任の先生からお話があると思います。この私の話を参考にしてください。そして、1月8日には、みんなが一年の目標をもって、すがすがしい笑顔で登校してくるのを楽しみにしています。



一年の計は元旦にあり



《1月 朝会「校長講話（要約・抜粋）」》 平成31年1月8日（火）

冬休み前の朝会で、「1年の計は元旦にあり」という言葉を紹介しました。実は、この言葉の前には、こんな一行があるのです。「1日の計は朝にあり」です。1年の計は元旦で、1日の計は朝なのです。つまり、「1日の計画は朝のうちに立てるのがよい」ということで、「1年の計は元旦にあり」と同じく、「物事の計画は早いうちに立てるべきだ」という意味です。

「1日の計は朝にあり」の言葉を伝えるのは、一日一日を大切に過ごしてほしいと思うからです。朝を気持ちよく起きて、朝ご飯をしっかり食べて、「さあ、今日は～を頑張るぞ」という気持ちをもって、毎日登校してほしいと思います。そうした朝を迎えるためには、よく言われている言葉ですが、「早ね・早おき・朝ごはん」が大切です。



もう一つお話したいことがあります。6年生の卒業文集を読ませてもらいました。6年間のことをふりかえりながら、また、自分が経験したことや身の回りの人との関わりを通して、将来の夢・希望を書いている人がいました。「お年寄りを助ける介護士になって、お年寄りを笑顔にしたい」とか「けがや病気で入院している人を心から安心させ勇気づける看護師になりたい。そして、英語も話せるようにして外国の人に対してもそうできるようになりたい」という作文がありました。小学校を卒業するにあたって、自分はこんな人になりたい、こんな人になれるように学んだことを生かして努力していきたいという思いが伝わってきました。すばらしいなと思いました。

「1日の計は朝にあり / 一年の計は元旦にあり」ということばをまねてみると、「将来の計は今にあり」と言えると思います。「今」というのは、「小学校時代」という意味を込めました。1年生から5年生の皆さんも、小学校を卒業するまでには、「自分は～のような人になりたい」という「理想とする自分の姿」をもってほしいと思います。

一日の計は朝にあり

# 「一校（学校）の計は、授業にあり」



## 《年頭に考えたこと》

中国（明）の時代に「月令広義（げつりょうこうぎ）」という中国の伝統的な年中行事・儀式・しきたりなどを解説した書物があるそうです。その中の「歳令『四計』」という項に、「一日の計は晨（朝）にあり 一年の計は元旦にあり」という言葉の後に、「一生の計は勤にあり 一家の計は身にあり」と続き、四つの「計」が示されているそうです。私は、これを「一日の計は朝、一年の計は元旦にあり、そしてその積み重ねの一生は、まじめに働くかどうかで決まり、あなたが養う一家は、あなたの健康で決まる」と解釈しました。

そしてこれにならって、「一校（学校）の計は？」と自身に問いかけました。

やはり、「一校（学校）の計は、**授業にあり**」と言えると思います。学校生活の中でいちばん長い時間を費やすのは授業です。子どもたちが、学ぶ対象や友達とどのように関わり学んでいるか、また、教職員がどのような子どもの学びを創造しようと意図し努力しているかという「授業」のあり様が、学校のあり様を決めると考えるからです。子どもたちが生き生きと友達と豊かに関わりながら、自らに問いかけ成長していけるような授業をめざしていきたいと思います。

## 「月令広義 歳令『四計』」

一日の計は晨（朝）にあり  
一年の計は元旦にあり  
一生の計は勤にあり  
一家の計は身にあり

## 自分の命は自分で守る

### 避難訓練（火災）

1月11日（金）

5校時に3階家庭科室から出火との想定で避難訓練をしました。職員は、火災警報作動により出火場所を確認し児童の安全確保と初期消火に努めます。その後初期消火失敗により消防署への通報、その訓練も行いました。

実際に火災が起きると、煙からいかにして逃れるかが大切になると思います。学校は、煙探知機の作動により、各階の防火シャッター、防火扉が自動的に閉まります。階段のシャッターが閉まると右写真のように、一瞬逃げ場がなくなったように思われます。しかし、通常通るところがシャッターで区切られたとしても、その反対側に「非常口」があり外に出られるようになっています。そうしたことも経験しました。

今回の訓練では、消防署の署員の方に来ていただきご指導いただくことになっていましたが、あいにく、本当の火災が発生してしまいました。消防署の方々は、そちらに出動されました。空気が大変乾燥し、火災件数が増えているようです。気をつけましょう。



## 卒業式（3.20）にむけて

「行（い）ってしまう1月。逃（に）げていく2月。去（さ）っていく3月。」とよく言われます。1月、2月、3月の時の過ぎる速さを表現した言葉です。もっとも大事な学校行事である卒業式（3月20日）は、まだ先のことと思っても、もう目の前です。

6年生の卒業文集を読ませてもらうと、将来、人に笑顔・安心を与えられるような人になりたいという思いを綴ったり、学校生活で心に残ったことを生き生きと表現したりしています。これまで、相和っ子のリーガーとして、仲間と目標を共有し、努力してきた6年生の姿、学習した成果を表現する生き生きした姿が目にかんできました。

卒業式では、こうした思い出とともに、自身の将来に夢と希望を抱きながら、卒業証書を受け取り、気持ちを込めて歌声を響かせ、自信にあふれた凛々しい声でことばを発することでしょう。そうした6年生の姿に、1年生から5年生は感動し、憧れの気持ちを持ち、自分の目標とします。

こうした雰囲気が卒業式にはあります。同様に子どもの成長をお祝いする行事として七五三や成人式などがありますが、それとは違った学校行事としての意義が卒業式にはあります。教職員が一丸となって、このような卒業式になるよう努力してまいりたいと思います。

